

研修部長 中村友希

琵琶湖を囲む山々も少しずつ新緑の様相を見せて、所々で桜の開花情報が報道されるようになったころ、「今年は何処の桜が綺麗だろうか、良い写真が撮れば良いな」などと淡い夢を追いかけていた時、会長から電話があり「研修部長をお願いできないか」と依頼があったのです。まさか私に役員が回ってくるとは夢にも思っていなかったので、誰かのセリフではないですが「びっくりポン」の心境でした。

ご存知のように、近江八幡市観光V.G協会には事業部・研修部・ガイド部・広報部・事務局などがあり、研修部は会則に「会員の知識・技能の研修の機会作りに努める」となっております。

最近の観光は、物見遊山の観光は敬遠され其の地域の歴史や文化、自然・景観など市民が守り育ててきた文化に接したい観たい触れたいというお客様が多くなっております。このようなお客様のニーズに応じたガイドの役割は増々重要でその一翼を担う研修部では、今までの実績の上に目に見えていない生活・文化をどのように説明、伝えることができるかを考えていかねばならないのではないかと感じております。

人にはそれぞれ器があり、人生経験豊かで知識豊富な会員の皆様に私ができることがあるのだろうかと不安な気持ちもありますが、会員、研修部員の皆様のご指導、ご支援をいただきながら努めたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

ガイド部長 宮津多佑

「観光ガイドは大きな観光資源のひとつでもある。」との認識をガイド部としては今年も持ち続けていきます。今年度も、ガイドの質の向上と人員の確保に取り組んでいきます。

昨年度の新しい取り組みとして、

① 七月に「ガイド養成講座」を開催・実行し、二名の方に入会していただき、現在では大きな力となって、活躍してもらっています。

② 三月の東近江ブロック交流研修会では、ガイド部員全員が他の協会の方々をそれぞれのコースで案内・ガイドさせていただきました。担当ガイドとしても、当協会としてもよい経験をしました。

令和元年度として取り組む大きな事業は、

① 本年度は、三名の新入会員を迎えます。早く実践で活躍していただけるよう班長を中心に全面支援していきます。

② それでも、繁忙期には人員不足が予想されますので、今年度も「ガイド養成講座」を開催します。

③ 来年度には、全県対象の交流研修会が当協会主管で開催されます。ブロック交流研修会より約四倍程度のガイドが必要になります。ガイド部員のみならず、当協会の約半数がガイドしていただく必要がありますので、

通常のガイドを通じてスキルアップを図っていきます。

④ 今年度より、事業部主催の「JRふれあいハイキング」が本格的に実施されます。

通常ガイドと同様に、会員の誰でもが案内・ガイドできるように、情報提供を行い、広く呼び掛けていきます。

⑤ ガイドを要請されるエリアが広がってきていて、沖島ガイドを始め、中山道武佐宿や千僧供古墳群などのガイドが必要になってきます。研修部と連携しながら、実践研修を行っていきます。

また、ガイドの質を高めるために、例年通り「フォローアップ研修(座学・実地)」を実施していきます。ガイドの基本を守りながら、状況に応じてフレキシブルな対応ができるようになっていただきます。今年度も、ガイド事業に積極的なご協力をよろしくお願いいたします。

